

令和2年4月30日

赤穂市教育委員会 様

公益財団法人赤穂市文化とみどり財団

理事長 豆田 正明



令和元年度 赤穂市立歴史博物館の事業報告について

赤穂市立歴史博物館指定管理者管理運営基準に基づき、令和元年度管理委託に係る事業について別紙のとおり報告いたします。



歴史博物館(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

開館日数 312 日

常 設 展				特 別 展			合 計		
区 分	入館料(円)	入館人員(人)	入館料収入(円)	入館料(円)	入館人員(人)	入館料収入(円)	入館人員(人)	入館料収入(円)	
個 人	大 人 200	12,890	2,578,000	大 人 300	4,356	1,306,800	17,246	3,884,800	
	小中学生 100	701	70,100	小中学生 150	171	25,650	872	95,750	
団 体	30人以上	大 人 160	3,955	632,800	大 人 240	1,186	284,640	5,141	917,440
		小中学生 80	263	21,040	小中学生 120	51	6,120	314	27,160
100人以上	大 人 120	102	12,240	大 人 180			102	12,240	
	小中学生 60			小中学生 90					
減	個人 50%	大 人 100	595	59,500	大 人 150	273	40,950	868	100,450
		小中学生 50	27	1,350	小中学生 75	7	525	34	1,875
免	団 体 30人以上50%	大 人 80	3	240	大 人 120			3	240
		小中学生 40			小中学生 60				
100人以上50%	大 人 60			大 人 90					
	小中学生 30			小中学生 45					
100%	大 人	2,643		大 人	325		2,968		
	小中学生	726		小中学生	169		895		
特別利用券利用者	大 人	40		大 人	120		160		
	小中学生			小中学生					
赤穂観光パスポート	通りゃんせ	106	(@120×164) 19,680	通りゃんせ	38		144	19,680	
合 計	大 人	20,334	3,302,460	大 人	6,298	1,632,390	26,632	4,934,850	
	小中学生	1,717	92,490	小中学生	398	32,295	2,115	124,785	
	計	22,051	3,394,950	計	6,696	1,664,685	28,747	5,059,635	

(赤穂観光パスポートの入館料収入は、常設展にまとめて計上した。)

特別展、企画展等の事業報告

歴史博物館

特別展

期 間 令和元年12月13日(金)～令和2年2月4日(火)
名 称 開館30周年記念「元禄赤穂事件」展
内 容 開館30周年を記念し、館のメインテーマのひとつである元禄赤穂事件を取り上げ、史実の面から事件を辿る機会として近年発見された新出資料も交えて154点を展示
入館者数 6,696人

特集展示

期 間 平成31年4月27日(土)～令和元年7月30日(火)
名 称 「関達也氏寄贈資料展 ～浮世絵を中心に～」
内 容 赤穂出身で赤穂観光大使でもある関達也氏から平成26年から31年にかけて寄贈された浮世絵・摺物など154点を一堂に展示
入館者数 6,892人

常設展展示替

令和2年1月9日(木)
「赤穂義士の手紙」
館蔵及び近年寄託された新出資料から義士の手紙16点を抽出し展示

文化図書等の発行事業

歴史博物館特別展図録の発行

発行日 令和元年12月13日
図書名 「元禄赤穂事件」
発行部数 400部

ミュージアムグッズの製作

製作月	グッズ名	製	備考
令和元年5月	忠臣蔵扇子 「二段目 桃井館松切りの場」 (新規)	400本	歴史博物館

赤穂市立歴史博物館の管理運営に関する業務の収支決算書
(令和元年度分)

(単位:円)

収 入

項 目	予 算	決 算	差 引	内 訳
歴史博物館管理収入	21,160,000	19,735,676	1,424,324	歴史博物館管理収入
施設利用料収入	5,000,000	5,059,635	△ 59,635	施設利用料収入
合 計	26,160,000	24,795,311	1,364,689	

支 出

項 目	予 算	決 算	差 引	内 訳
人件費				
給料手当支出	9,005,000	8,942,499	62,501	職員給 3人、諸手当
臨時雇賃金支出	70,000	21,680	48,320	応援職員賃金
福利厚生費支出	2,407,000	2,241,816	165,184	共済費、社会保険料外
小 計	11,482,000	11,205,995	276,005	
物件費				
旅費交通費支出	295,000	277,350	17,650	旅費
消耗品費支出	621,032	621,032	0	施設管理用消耗品外
燃料費支出	44,000	38,439	5,561	ガソリン代外
会議費支出	5,000	4,262	738	来客賄
印刷製本費支出	658,000	632,862	25,138	特別展ポスター、チラシ印刷外
光熱水費支出	3,176,968	2,330,781	846,187	電気代外
修繕費支出	398,000	395,462	2,538	収蔵庫加湿器修繕外
通信運搬費支出	366,000	342,777	23,223	電話料外
保険料支出	58,000	50,890	7,110	自動車損害保険料外
広告料支出	70,000	0	70,000	
手数料支出	32,000	31,860	140	除湿器処分料
委託料支出	7,699,000	7,698,069	931	清掃管理業務委託 1,227,231 特別展業務委託 4,137,600 建物管理業務委託外 2,333,238
使用料賃借料支出	1,169,000	1,097,111	71,889	特別展展示ケース賃借料外
原材料費支出	8,000	0	8,000	
負担金支出	17,000	16,172	828	県博物館協会負担金外
雑費支出	61,000	52,249	8,751	諸雑費
小 計	14,678,000	13,589,316	1,088,684	
合 計	26,160,000	24,795,311	1,364,689	

赤穂市立歴史博物館指定管理者自主事業収支決算書
(令和元年度分)

(単位:円)

収 入

項 目	予 算	決 算	差 引	内 訳
図書発行等事業収入	1,077,940	1,038,311	39,629	図書頒布収入
合 計	1,077,940	1,038,311	39,629	

支 出

項 目	予 算	決 算	差 引	内 訳
図書発行等事業費				
消耗品費支出	10,000	0	10,000	
印刷製本費支出	931,940	931,940	0	特別展図録、忠臣蔵扇子
通信運搬費支出	4,000	1,361	2,639	宅配便料
手数料支出	66,000	39,010	26,990	図書等販売手数料
諸謝金支出	66,000	66,000	0	執筆等謝礼
合 計	1,077,940	1,038,311	39,629	

令和元年度 指定管理者管理運営事業評価シート

1 評価対象施設

公の施設の名称		赤穂市立歴史博物館				
所在地		赤穂市上仮屋916番地1				
指定管理者	団体名	(公財)赤穂市文化とみどり財団		指定期間	開始日	平成30年4月1日
	所在地	赤穂市中広864番地			終了日	令和3年3月31日
選定方法		公 募 ・ <u>非公募</u>		評価実施年	指定期間3年のうち2年目	
施設設置目的		郷土の歴史に関する資料の収集、保管、調査研究及び展示等を行い、市民の教養の向上、文化の発展に資するため歴史博物館を設置する。				
主な実施事業		(1) 実物、複製、模写、模型、図書、フィルム等の資料を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。 (4) 講演会、講習会、展覧会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。 (5) 他の博物館、学校その他の関係機関と連絡し、及び協力すること。 (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事業				

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H30	目標	R1	目標	R2
a 利用者数	人	29,000	24,520	29,000	28,747	29,000	
b 稼働率	%	100	85	100	99	100	
c							
d							
e							

3 指定管理業務にかかる収支状況

区 分		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
収入計	A	23,014,015	25,833,622	27,363,000
指定管理料		18,806,195	19,735,676	20,850,000
利用料収入	C	3,826,720	5,059,635	5,000,000
自主事業収入		381,100	1,038,311	1,513,000
その他				
支出計	B	23,014,015	25,833,622	27,363,000
事業費		22,632,915	24,795,311	25,850,000
内、人件費	D	10,433,652	11,205,995	11,746,000
内、再委託料	E	4,995,619	7,698,069	6,681,000
自主事業費		381,100	1,038,311	1,513,000
事業収入	A-B	0	0	0
利用料比率	C/A	17 %	20 %	18 %
人件費率	D/B	45 %	43 %	43 %
再委託費比率	E/B	22 %	30 %	24 %
・支出欄「D・E」は代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。 ・事業費は、該当年度及び過年度決算を記入する。また、右欄には、次年度予算を記載する。				
補足説明				

4 事業評価

評価区分	評価項目	自己評価	所管評価	
① サービスの履行	人員体制	事業計画に則し、人員を過不足なく配置している。	B	B
		事業計画に則し、計画的に研修等を実施している。	B	B
	法令順守	法令・条例等に基づき、必要な点検・報告を行っている。	B	B
	外部委託	外部委託に際し、適切に業者を選定し、業務指導を行っている。	B	B
	個人情報保護	個人情報保護に関する条例を順守し事故防止対策を講じている。	B	B
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B
		協定書等に従い、情報を適切に管理し、公表している。	B	B
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	B	B
		市との連絡調整を適切に行い、情報の共有が図れている。	B	B
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B
緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。		B	B	
緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。		B	B	
財務状況	指定管理者の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	B	B	
総括	【業務の実施体制】に関する評価】	B	B	
② サービスの質	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	B	B
	利用者対応	利用許可、利用料金の徴収、減免等の受付業務を適切に行っている。	B	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	B	B
		言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	B	B
	事業運営	事業計画に則し、必須事業を実施している。	B	B
		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	B
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	B
	維持管理	管理運営基準等に従い、施設の維持管理を適切に行っている。	B	B
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	A
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
	環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	B	B
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B
		要望、苦情等を整理し、遅延なく市に報告している。	B	B
	事業評価	利用者アンケート調査を実施し、その結果を利用者等に公表している。	B	B
	提案事項	各種提案事項について、市と協議し、検討を行っている。	B	A
利用状況	利用者数等は、目標に対し妥当な水準である。	B	B	
総括	【業務の内容・水準】に関する評価】	B	B	
③ 安定性	経理事務	適切に経理事務を行っている。	B	B
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	B	B
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B
	総括	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	B	B

所見 (成果、課題等)	【自己評価】 令和元年度の入館者数は、特別展「元禄赤穂事件」の開催に合わせて、JR西日本主催の「ちよこつと関西歴史たび」が12月13日から2月29日にかけて実施され、事前に大々的にPRされたことから12月から1月にかけて入館者数が大幅に増加した。また特に大きな自然災害はなかったが、新型コロナウイルスの感染拡大により3月は入館者数が激減した。年間を通しては昨年度よりも入館者数、入館料ともに増加しほぼ目標を達成する結果となった。展示の内容とPRの規模で入館者数は大きく左右されることから、今後は日本遺産に認定された文化財等を活用するなど、効果的に館のPRや情報発信を行い入館者の増加につなげたい。		
	【所管評価】 適切な館の維持管理に努めながら、積極的な情報発信等により来館者の増加に努めている。特に令和元年度は、特別展の開催が多くの集客に結びついた。 今後とも利用者の安全確保に努めながら状況に応じて、事業の創意工夫を行いながら、多角的な方法による情報発信等により、引き続き来館者の増加に努められたい。		
前年評価	B	総合評価	B

※評価基準

A	優良	基協定書、仕様書、事業計画書等を遵守し、要求水準より優れている。
B	良好	協定書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
C	要改善	協定書等に定める要求水準を下まわっており、改善が必要と認められる。